時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外二箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク
時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限一日以上七日以上六日迄
一行ニ付	十三錢 十一錢 十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報

日本絹織物に禁止税を課するの説

我國の貿易が既近十年間に二倍五分餘の額に達し其品柄の增減を見ても内國殖産の隆盛に赴くを窺ひ見る可き次第は過日來の實業論にも記したる所にして從前生絲は輸出すれども絹織物は速も覺束なしと云ひしものが近來羽二重、縮緬、手巾等の製造輸出は非常の額に上り絹織物貿易の前途春洋々たる光景は痛く米國の同市場に影響を與へたるものと見え絹織物工場の盛んなるより自して米國の里昂府とも呼ばるゝニューゼルシー州パタソン府の近刊新聞は「日本に注目せよ」と題して左の如く論じたり

我米國の絹業家は眼を西方日本國に注ぐを要す、我國製絹業の最大强敵は英に非ず佛に非ず獨に非ずして獨り日本國に在り我國の輸入關税率は以て歐洲の絹業に對し得べきも工銀の廉なる日本國との競爭に堪ふるものに非ず既往十二年間沈默の裏に打過きたる日本人は今や大に活眼を開き我パタソンの絹業を侵害したるみと少々ならず曾て我輸良なる製絹機械の圖畫を携へ歸りし日本人ありけるが其頃は之を用ふる法さへ知らざりしに今は却て其機械を同國に實用するに至れり

右の結果は漸く實際の上に現れ我地方に於て年々莫大の製產額ありし絹手巾の如きは昨年來大に其額を減ずるに至れり實に彼の日本國は一般絹物の輸出を擴張したるのみか手巾の如きは百零六萬五千六百七十九ダースの多きを我に輸入し已に業に我手巾工業を壓倒し得たり此勢を以て進んで止まざらんか他の絹業に及ぼす可き影響は今より想ひ見る可く盡々昨今の如くんば日本絹織物に對し我輸入關税率を高め所謂特止税となすの必要を見る可し而して此税率の增加は彼我兩國工銀の差を標準として定めざる可からざるものなり

以上の記事は日本絹業の進歩を說くと共に自國の絹業者を警戒し結局其絹業を保護するが爲めには右樣の禁止税も敢て厭はざるの意を示したるものにして米國の里昂と云はるゝパタソン府新聞の記事とあれば我絹業者の輕々に看過す可きものに非ず抑も昨年中我國より巨額の絹手巾を輸出し米國絹市場の價を下落せしめたるは事實にして彼の絹業者が其勢を他の絹物にも及ぼす可しとて憂慮するも故なきに非ず而して其憂慮の大原因を尋ねば雖人の胸にも浮ぶ如く我邦が生絲に富み比較上工銀の廉なる等の故に非ずして米國内地絹物の需用年々其區域を擴め其種類を增し底止する所を知らざるものあるが故なり現に十餘年前まで絹編蝙傘、絹襟卷なぞを用ふる者は米國にて一部分の人に限れるみとなりしに今は殆んど一般に用ふるまでに成り行けるを見ても知る可し米人の恐れて守らんと欲し我々の奮ふて進まんと欲する所以のものは實に茲に在り從來我國の絹業者が米國に對する身構は如何にもパタソン記者が諷せし如くにして申さば陰に進み陰に賣の極ありしが米國の同業者は已に我を以て經濟上の公敵となすの今日、我國の同業者も正に陽に進て陽に爭ふの覺悟なかる可からず顧みて我邦製絹家の實際を察するに果して彼の記者が評判する如き程度に達したるや如何、心元無き次第にして機織器械の如き善は即ち善なれども改良の餘地尙ほ綽々たるには非ざるか、機械に精通せる人に就て深く研究したるみとありや、原料の撰擇染色の善惡を始め機業上の技術に於て尙局外者の喙を容るゝ所は無きか、次に販賣上に於ても我國人の通弊として外を忘れて内に競ひ物品を粗惡にして信用を落すの憂あり數へ來れば前途我國絹業者の奮發を要する點少からずと云ふ可し開く所に據れば前記パタソンの地たる廿餘年前迄は水運の便ある一村落に過ぎざりしが今は巨大なる數十の機業工場を起し自から米國の里昂と稱して歐洲より輸入の絹織物を減殺し尙は進んで日本を放逐せんとす、壯なりと云ふ可し畢竟經濟を忘れざるの致す本業の學理を疎かにせず世界の所にして我國同業者の好き鑑にあらん、

一倍半ならんとす今後益々人口の繁殖すると共に富も亦增殖し絹織物の需用益々多かる可きは分り切つたる事柄なれば我當業者は此際深く心構を定め内は商方機業を改良して彼の嗜好に投じ外は品物の美、價格の廉を以て彼の當業者と競爭し終に我織物をして米國市場に必要欠く可からざると今日の生絲の如き地位を得せしむる可からず此くの如くなれば右の禁止税云々の事の如きは云ふ可くして行ふ可からざるの一説たらんのみ米國は爲來無限の貿易市場たるみとを覺悟して今後益々油斷なからんみと當業者に向て我輩の與れも注意する所なり

官報

○農商務省訓令第十號

本年（三月）農商務省訓令第六號中毎月ノ下「（二十三日更ニ）」トアルヲ「文官俸給支給定日ト同日ニ」ト改メ該訓注ヲ削除ス

明治二十六年五月三日　農商務大臣伯爵後藤象二郎

農商務省訓令第十號番照
農商務省訓令第六號（明治二十六年三月十六日）抄錄
月額ヲ以テ支給スル官員俸給ハ自今毎月二十三日ニ（休日ニ當ルトキハ繰下テ之ヲ支給スベシ

○内務省告示第二十五號

一（粹の掃寄）笑海　一冊
愛知縣名古屋市花の木町百五十二番戸森仲藝發行
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス
明治二十六年五月三日　内務大臣伯爵井上馨

雜報

○工事長及事務長の辭表は如何　曩に東京市參事會員の總辭職と同時に水道工事長古市公威同事務長梅川忠兵衛の二氏が辭表を提出し今日まで富田知事の手許に預りあるよしなるが今回の事件たる既に市參事會が其責を引て辭職したる上は最早事濟みとなりたるものにて其配下に立ちて事務を掌る工事長及事務長は辭職するに及ばず尤も其設計變更の事に就ては工事長亦多少の責任なしとせざるも事務長の如きは殆ど無關係の裘なれば市參事會は其辭表を見ざるまゝにして此處は圓滑に事を結び二氏共に近日より元の如く就職するに至るべしと云ふ

○澁澤榮一氏と市參事會員　東京市の養育院は有志の義捐金を以て設立し貧家の子弟を養育する處にして同院長は市參事會員をして之に當らしむるの規定ありて澁澤榮一氏が久しく此任に在りしが今度の改選に際し同氏が市參事會員の撰に洩たるに就ては勢、此任を他人に讓らざるべからず元來養育院は前記の如く廣く有志者の義捐金より成立せるものなれば此任に當る人は朝野の貴顯紳士間に交際廣き人にあらざれば有志者を勸誘して多額の金圓を義捐せしむるみと能はず從て同院の盛衰にも關係する次第なるが澁澤氏は此道に掛けては最も適當の人にして同院が今日の盛大を見るに至りしも氏の力預て大なれば差詰め新撰の參事會員中より其欠を補ふみとは困難なりとて同會員及市會議員中には氏が撰に洩れたるみとを惜むもの多く就ては近衛篤麿公の補欠撰擧には氏を推さんとするもの多かるべしと云ふ

○市參事會の協議と談判　今回新撰されたる東京市參事會員は過日來東京府廳に會合して彼の水道鐵管鑄造の件に就て協議する處ありしが一昨日に至り愈々日本鑄鐵會社に對し示方書を舊に復するが爲めに談判を始むるみとゝなり早速同社員の出頭を促せしに遠武秀行氏外一名出頭し參事會は知事をして其談判に當らしめ尙ほ桐原捨三、稻田政吉の二氏を列席せしめたる事固より秘密に屬すれば更に其詳細を知るによしなきも鑄鐵會社にては既往及將來とも東京市の工事を受負ひ會社に取りては一廉の得意先なれば固より變更の契約書を楯にして飽く迄も我意を押通さんとするにあらず可成此談判に應じ事を圓滑に處するの得策たるを知るも如何せん之を舊に復するは容易の事にあらず又多少費用の點にも關係する次第なれば充分重役の間に協議を遂げ尙ほ重なる株主の意向を確めたる上何れ兩三日中には何とか挨拶に及ぶべしとて當日は其筵に立別れたるよしなり尤も同會社にして前記の如く變更の契約書を楯にして飽くまで參事會と爭ひ從て市會の感情を害する如き事ありては一時の勝を制するは容易なれども意よ鑄鐵會社の上之を市參事會に引渡す時に際し同會の之を檢査するの手續に於て寬厚の差あらんか同社の損害は實に莫大なるべく左れば同社にては便宜ひ示方書復書の事を肯んぜざるにもせよ或は他の方法によりて市會及參事會を滿足せしひるに至るべしと云ふ

○日本鑄鐵會社員遠武秀行氏外一名出頭し參事會に引渡す時に際し同會の之を檢査するの手續に於て寬厚の差あらんか同社の損害は實に莫大なるべく左れば同社にては便宜ひ示方書復書の事を肯んぜざるにもせよ或は他の方法によりて市會及參事會を滿足せしひるに至るべしと云ふ

しかも公開なり、余は

なり、余は

れども、

は鑄造され

余の奴僕は

ても自分は

他人の手を借

の手を借り

か、縱

へ到り得

して彼を

て、剩さ

大書を追

めんみと、

余の胸に

の手を書

早く之を

物を繕ひ

ド街なる

猫に袋を

さに堪へ

懶軟な

銀魔、今

御者は早

余も相應

なりしの